

# 認定こども園・さざなみの森

## 【取り組みのねらい】

乳幼児期に、さまざまなことが体験できる「暮らし」をテーマにした、園庭環境を作り出す第一歩とする。

### 保育環境づくりのポイント

- ・子どもと大人が「自ら成長し、共に育ち合う」ことができる環境を考えていく。
- ・将来、持続可能な園庭とするために、最も重要であると思われる土作りを学ぶ。

～子どもたちのこの力を育みたい～

- ☑感じる・気付く力
- ☑うごく力
- ☑考える力
- ☑やりぬく力
- ☑人とかかわる力

### 取組み内容

～9月初旬

今の乳児の姿と、どんなものがあったらあそびが展開するかを話し合う。「揺れる、登れる」ものを作ろうと考え始める。具体的なイメージの構想をする。

10月17日

巣を作ったスズメバチから避難するために、幼児用の園庭で乳幼児と一緒にあそぶようになる。危険安全などを考慮し、乳児と幼児クラスで園庭が分かれていたが、0～6歳までが一緒にあそべることに気付き、お互いが学び合い、育ち合う姿が見られたことから、保育者の考えが変わり始める。

改めて今の乳児用園庭は「誰のための」「何のための」園庭にすべきかを話し合う。

10月26日 第一回園庭研修／園庭整備ワークショップ

「動き」に着目した写真から、「自然に触れ合える場所作り」というテーマで再考する。

木村さんを交えてのミーティングで、「土をつくる園庭」というテーマで動いていくことが決定する。「園庭に土のある風景をイメージし、そこにどんなものがあるといいか」を幅広く集め、土を作る方法を模索する。

12月4日、20日 第二、第三回園庭研修／園庭整備ワークショップ

「畑・火場・水場・調理場・草木のある場所」といった要素が出てくる。乳児用園庭を全園児のための「暮らし」というキーワードにした園庭作りをしよう、そのために「土作り・畑作り・野菜作り」を一つずつ研究していくことになる。

1月

地域で農業をされている広大名誉教授・佐藤清隆さんがプロジェクトに加わり、畑予定地の土を耕運機で掘り起こし、真砂土を入れる。職員全員でのMTGをきっかけに、他部署のスタッフと協力して園庭プロジェクトが進んでいく。

2月～

それぞれの要素を置く場所はどこが適しているのかを、畑の土を作りながら少しずつ話し合っていく。

「登る・揺れる」「自然に触れ合う」「土を作る」「暮らし」。テーマが常に変わり、紆余曲折した一年だった。そのたびに子どものことを思い、深く考え、悩み、最善を導き出そうとしてきた経験が、今回のプロジェクトの何よりの成果であると言える。これから取り組んでいく「暮らし」というテーマが、私たちに何をもたらしてくれるのか。その期待に沿うだけの素材であると確信している。



乳児・幼児で過ごす場所が分かれていた。



「動き」の写真(100枚)を見ながらの話し合い。



専門家に話を聞いたり、本を読んだりして、自分たちで土を作る過程を考えたり、学んだりする。



整地し、要素がどこにあると良いのか、話し合っていく。



真砂土に稲殻燻灰、腐葉土を入れ、土を作ってみる。

<今回の取組みを通して>

たまたまスズメバチが現れたことから、園庭整備方針を変えざるを得なくなり、乳児園庭から全園児対象とした園庭づくりを一から考えることとなった。我々の既存概念を打ち破って、0～6歳と一緒に遊べるんだということ、園庭整備に「土を持ってくる」のではなく、「土をつくる」という新しい発見の機会を得た。

